

令和4年度 自治基本条例推進委員会 議事録

| | |
|------------|---|
| 日時 | 令和4年7月7日(木) 午後1時30分から3時 |
| 会場 | 焼津市役所本庁舎 会議室1B |
| 出席委員(6人) | 松下委員長、小長谷委員、寺本委員、児玉委員、中野委員、保科委員、向坂委員 |
| 欠席委員(3人) | 鈴木副委員長、奥山委員、北島委員、 |
| 事務局出席者(6人) | 伊東部長、櫻井課長、緒方主幹、池ヶ谷主任主査、宮澤主査、大石主事 |
| 傍聴者 | なし |
| 次第 | 1 開会 2 挨拶 3 議事(1) 自治基本条例の見直しに関する提言書(案)について (2) 令和4年度まちづくり市民集会について 4 その他 |

| 発言者 | 発言内容 |
|-------|---|
| 櫻井課長 | 本日は大変お忙しい中ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。ただいまより、令和4年度第1回焼津市自治基本条例推進委員会を開催します。私は本日司会を務めさせていただきます、市民協働課長の櫻井でございます。開会に先立ちまして、市民環境部長伊東よりご挨拶を申し上げます。 |
| 伊東部長 | (挨拶) |
| 櫻井課長 | 議事に入ります前に、委員の交代がございましたので、ご報告させていただきます。焼津市社会福祉協議会の高橋正幸様にかわりまして、今年度より、小長谷宏二様が新しく委員に就任されました。小長谷様は、今こちらに向かっていらっしゃいます。なお北島委員と奥山委員、鈴木委員より本日の会議を欠席する旨のご連絡をいただいていることをご報告させていただきます。大変申し訳ございませんが、市民環境部長につきましては次の会議がございますのでここで退席させていただきます。それではこれより議事に入らせていただきます。松下委員長、お願いします。 |
| 松下委員長 | それでは早速、議題に入っていきたいと思います。 議題の1 自治基本条例見直し委員に関する提言書案について、事務局から説明をお願いします。 |
| 緒方主幹 | 自治基本条例の見直しにかかる提言書案について御説明させていただきます。 自治基本条例については、第30条にこの条例の施行の日から4年を超えない期間ごとにこの条例の規定について検討を加え、見直しを行うこととなっております。このことについて、昨年度より皆様と話し合った結果、条例そのものの見直しということではなく、4年目の時に、一度立ち止まって、思い通りにいっているか考えてみようということなので、運用面やこの条例が上手く機能しているかの見直しをしていくことになりました。その後、皆様にアンケートを実施しまして、ご意見をいただいた内容をもとに事務局のほうで、松下先生にご助言をいただきながら提言書案を作成させていただいたところです。 資料をご覧ください。提言書の1、2につきましては、今までの経緯及び今申し上げた運用面の見直しをして、「オール焼津」をうまく実践していくための仕組みづくりが大事だよ、という検討結果の報告になるので、この辺りはよいかと思っております。一度、1、2を読んでもみます(資料読み上げ)。 |

| | |
|-------|---|
| 緒方主幹 | <p>特に、今日は「3の今後の取組の方向性」について、皆様のご意見をいただければと思います。</p> <p>まず、大きな柱として、指針1「デジタルによる地域づくり」と指針2「地域コミュニティによる人づくり」としました。指針1「デジタルによる地域づくり」ですけれども、昨年の市民集会でもそうでしたが、つながれる人がいる一方で、つながれない人もいて、そういった格差をなくすための方法、また普段は外に出て集まれない人でも、デジタルを使用することで、誰もが障壁なく地域と繋がっていく方法を検討・実施したらどうかという提言です。提言だけでは、抽象的なので、その中で、誰一人取り残さないための仕組み、そういったマニュアルを実際にこれから3年くらいかけて作成していったらどうか、というところなんです。</p> <p>(マニュアル作成までの実施計画案は別紙のとおり)このあたりが、まだ私の中で整理できていないので、あとから松下先生に詳しくご教授いただければと思います。それから指針2「地域コミュニティによる人づくり」ですけれども、まちづくりに取り組んでいる積極的な市民はいるけれども、地域などで活躍しきれていないよね、というところで、この貴重な人材の発掘及び育成、また対話の場をつくって、そこで活躍していただくという取組の提言です。今日、皆様の意見をお伺いしまして、また修正していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> |
| 松下委員長 | 指針の2は人作りだから人材発掘とか、人の育成とかっていうって意味ですね。 |
| 緒方主幹 | そうです。 |
| 松下委員長 | <p>今説明をいただきましたように、条文をいじってもあまり意味がないので。条例自体が許容性があるというか、包括的なので、どこにでも当てはまってくるわけです。それよりも中身を継続的にやっていくことが、自治基本条例を広めていくことになる。特に市民集会は、様々な世代が笑顔で話を聞きあう、といった取り組み、新しい文化づくりが行われてきた。そういったまちづくりをすすめていく、というのが、大きな方向性「オールやいづのまちづくり」なのだと思う。そうやって自治基本条例を進めていったらよいのではないかと、というのが前段ですね。これはすでに何度も確認してますので、条文はいじらないでこれでいこう、ということではよいのではないかと思います。よろしいですよ。</p> |
| 各委員 | はい。 |
| 松下委員長 | <p>今度は実際どうやってそれを進めていくかです。今後の取り組みの部分を、今日はみんなに知恵を出してもらったり、あるいはどうなんだろうっていうことでもいいけど、質問や、このあたりはこうしたらよいのでは、ということを書いてもらって、それが即提言にのるかは別だけど、たくさんアイデアをもらった方が事務局もまとめやすいと思うので、取り組みの方向性についてご意見を出していただきたい。指針の1と2は関連してるので、どこからでもいいと思うんです。何でも結構です。</p> |
| 松下委員長 | <p>高知の知人がやっている「見守り委員会」というのがあって、コロナ禍でデジタルを使ってというのが大きなテーマになっていて。いくつか提言がでていて、私が面白いと思ったのが、高知は就職先がないから一番の就職先が市役所なんですけど、協働の活動をしたいと思っている人をインターンシップで協働推進課で受け入れている。若い人の参加を促す面白い取り組みだと思った。学生に限らず、転職する人はいるから、一日体験や土日だけやるとか。どちらにしてもそ野を広げる話なので。ここで、若い人に手伝ってもらおうとあるが、このようにやったらいいんじゃないかとも思う。</p> |
| 向坂委員 | <p>私も入れてますが、焼津市のLINEクーポンが出たときに地域のJAに行くといつもの何十倍もの人に来ていた。市のLINEがこんなにも普及して若者だけでなく、上の世代まで活用していたので、政府が言っているデジタル田園都市構想じゃないですけど、デジタルを地方都市で比較的皆さん活用してるのかなと思ってます。なので、市のLINEを皆さん見て、というのを感じています。</p> |
| 松下委員長 | <p>島田市でLINEのチャット機能を使ったワークショップを行った。都合のいい時に見られるじゃないですか、通勤時間帯とか。可能性が広がっていきますよね。LINEをよく使っている若い人が考えたら、LINEを使ったつながりの仕組みを考えつくのでは。</p> |

| | |
|-------|--|
| 保科委員 | 「地域おこし協力隊」の人たちも一緒にやると行動が広がっていくのでは。3年契約のようですけれども、個人で行動するだけじゃなく、一緒にできたらいいなって思いました。 |
| 松下委員長 | 他の町だと、その人たちが中心となってまち作りをお手伝いしてるので、せっかくそれを専門として来ているのもったいないですね。 |
| 寺本委員 | 高校生がテーブルにいましたが、大学生にも声をかけたらどうでしょうか。福祉大があるし、福祉の関係の情報や考え方も聞けたらどうかな、と思ってるんです。コロナがどうなるか全くわからないですけど、若い人はスマホを使うことについても、情報を持っていると思うので。 |
| 松下委員長 | 医療と福祉は、地域にとっては大きな関心事でニーズが高い。若い人たちが話してくれるといいし、彼ら自身も自己肯定感を高めることができる。そういう資源を使わないとだよ。 |
| 児玉委員 | 私もそうですが、デジタルを使わない人をどこで捨てるか。63歳ですけどLINEとかやってないですし、それより上の方はデジタルに繋がるっていうのはちょっと無理だと思うんです。 |
| 松下委員長 | そこで疎外感につながってもいけない。強調しすぎはよくない。 |
| 児玉委員 | 先日、市政70周年記念講演会で、地域という公民館単位でまち作り委員会みたいなのをやってやったらどうかというお話もしました。あと、東益津には地域の団体がいっぱいあって、そういう地域が増えて、各地域がやって。この「指針2」のように、まち作りは人作りだと思うので、コミュニティは公民館という大きなところじゃなくて小さい顔の見える地域で、自分の地域の課題やまち作りとか小さいところがそうやっていければ、全体が良くなってくっていうふう思うので、指針2はもう一つ積極的に、できたら町内会に1つ作ってもらえるような形になれば、全体がもっとうまくいくんじゃないかと思います。 |
| 松下委員長 | いいお話ですね。櫻井課長、今の話を補足してください。 |
| 櫻井課長 | 住民の方のニーズとか、そういったものが複雑化しておりまして、やはり行政ではやりきれない部分が出てきてしまうんです。地域で課題もニーズも変わってきますので、地域の方で解決する、そういうふうな考え方が講演会のベースになっていたと思います。 |
| 児玉委員 | 旧大井川町では、市でできない細かいことを地域で課題としてみんなで話し合っって、例えば掃除したりでもいいんですよ。カーブミラーを掃除してみたり、地域の危険な場所を洗い出して、例えば柵を作る、だったら市に要請したり。自分たちでできることとして交通安全講習をやったり。小さい地域で課題は出して、そうすれば市の目が届かないところでも、その人たちから市に上げてもらう、そういう仕組みがあったら一番いいかなと。 |
| 松下委員長 | 児玉さんは、以前から言ってたね。旧大井川の経験から。旧焼津も、これからそちらの方に方向転換していくんですよ。それが2番ですね。 |
| 児玉委員 | 東益津には、小さな団体がいっぱいあってうまくいっている。 |
| 松下委員長 | 今までは、全て町内会だけど、でもそれじゃあ次に続かない。旧大井川町でやっていたことをやっていく方向なんだと思うんだよ。でもこれ、成功事例がないんだよ。いろんなところでやっているけど、絵は描けて簡単に説明はできるけど、実施は難しくて。 |
| 児玉委員 | 昔はそうだったんじゃないですか。 |
| 松下委員長 | 時代が違うから、今に合わせてやっていかないと。欲張ってもいけないので、人づくりに焦点を絞った方がいいんじゃないかと思う。 |
| 保科委員 | 1番に戻りますが、デジタルは、使う人は使うけど、使わない人は使わない。使わない人も、これからはそうになっていくっていうのはもう目に見えてわかっていることだと思うので、使っていない人が使えるようになるのにはどうするかっていうことも必要なことだと思う。これは年齢じゃないと思うんです。高齢じゃなくても私はガラケーでいい、という人もいますので、そういうのはどうなんだろうなって。静岡市はマイナンバーにおまけつけたらすぐ殺到して、パンクしちゃったよみたいな話も聞いたりしてるんですけども。何かしらみんなでできることを考えて、置いてく置いていかないじゃなくて、こうなるよっていうのがあるといいのかなって思います。やってみたいという人を誘う、っていう。 |
| 児玉委員 | もともと必要ない、生活できるからっていう人はいます。 |

| | |
|-------|--|
| 保科委員 | これからは、どんどんそうなるんじゃないかな。藤枝では公民館の申し込みがデジタルで、焼津もこれからそうなるって言ってましたけど、そうになると、知らないでいられないっていうふうになってくる人が増えてくれば、先にそっちが行ってしまうと、置いてかれたって思うんでしょけれども。 |
| 櫻井課長 | 補足させていただきたいのですが、この誰1人取り残さない仕組みというのは国で言っている言葉でして、特にDX推進計画の中で言っております。その真意というのは、デジタルを使えない人も含めて取りこぼさないということです。使えない方にもそのサービスは提供します、ということです。言葉が足らず申し訳ありません。 |
| 松下委員長 | やってみたいと思う人を後押しするのが大事だと思う。 |
| 中野委員 | ボランティアさんなどに関わってもらって障害のある子たちを知ってもらいたいけど、そういう機会っていうのはなかなかなくて。福祉大は介護がメインですが、体育館をお借りしてバブルサッカーなど、させていただいたりすることがあります。例えば障がい者の方と関わるということに対して単位を一単位もらえる、とかあったらいいなと思います。今現在焼津市内の重度の子たちは藤枝の特別支援学校に行ってます、100人以上います。人口から考えると100人って、ちょっとだと思んですけど、卒業した人たちの数を考えるとその100人どころではなくて、障がい者の方たちはいろんな人たちと関わりたいけど、朝、事業所や福祉事業所行ってお仕事して帰ってくるっていうようなそんな状態なので、デジタルには絶対無理だけど、うまく関われるようなことがあったらいいなって思います。高校生などのボランティアさんはいるけれど、一般の方も参加できるようなボランティアの仕組み、それは障がいだけじゃなくて、いろんなところに出でいられるボランティアさんの登録があったらいいなって思いました。 |
| 松下委員長 | そういう仕組みが今もあると思うけど、それが十分じゃなかったり、全員とり残さないっていうふうになっているか、という検証をしながら、自治基本条例のなかでもできるといい。 |
| 小長谷委員 | 昨年はコロナでいろんな研修がリアルできなくて、やむを得ず、ズームでの研修をかなりやりました。私も全国の研修会にズームで参加しましたが、非常に良かった。今までは東京に集まって、という形だったでしょうが、オンラインで、100人200人の方が参加者の中でグループ分けして、話をして、という方法です。集まらなくていいし、かかる費用も少ないし、かつ、講義みたいな形で聞くだけであれば、一方的な話なんで全然オンラインで問題ないよ、っていう話になるんで、これならコロナが収まってもある程度、広まっていくんじゃないかなと非常に強く感じたものです。社会福祉協議会でも、もう少しWi-Fi環境を整えて、誰でもこういうオンラインの会議ができる、っていう仕組み作りをしていかないとまずいな、提言をしていこう、と、市に協力をお願いしたところなんです。ズームの会議というのは本当にやりやすいので、広まる一方だと思うんです。コロナ一年目あたりは手探りでやっていて、ある程度慣れてきて、去年あたりは大分習熟してきて、県の研修会でも年々レベルアップしてるのが見えます。講座などを利用して広めていけば、集まるのは無理な場合でも個々の家や、小規模に集まって参加するとかっていう形をとれば結構面白い催しができるんじゃないかなと思って、ちょっと研究してみるのもいいんじゃないかなと思いました。あと、誰一人取り残さないというのは、共生で、福祉の基本理念でもあるので、それこそ重要なことだと思います。そういうことは進めてもらいたいと思います。 |
| 松下委員長 | 去年の市民集会では、リアルと別のよさがあった。小人数に分かれてリアルよりもより親しくなってる。どちらが、というのではなく、こういう方法の有効性があるので、やってみたらどうか、というのがスケジュール表にある、ミニ市民集会で、オンラインで来年の夏ぐらいにやれたらどうか、ということですね。せっかくズームを覚えたので、やってみればどんどん進歩していくからやってみたらどうか、というのが7番目にある「かゆいところに手が届く 孫の手マニュアル」ですね。 皆さん参加して面白かったと、そういうのを考えてみたい。提言自体は、何とでも書きようがあるんですけど、このとおりだと思うんですよ。それを裏付ける、今言われたような、ズームなどを使って集まりをどんなふうに行っていくかなど、実際の運用のなかで取り入れていくようにしたらいいと思う。全部はできないからいくつか少し絞って。 |

| | |
|-------|--|
| 中野委員 | 毎月の組長会に息子を連れて参加してましたが、話を聞いて、取りまとめてくださいっていうだけなら、ズームで参加できたら楽になるなあと思って。 |
| 松下委員長 | 地域のデジタル化って大きな課題ですよね、自治会のデジタル化。焼津はどうですか。 |
| 櫻井課長 | 市が主導して、といった動きはありませんが、自治会のなかで若い人中心にそういった意見があることは承知しております。 |
| 松下委員長 | ライフスタイルに応じてリアルだったりオンラインだったり工夫をすれば、もっと参加できるし、1番や2番のヒントになると思う。今の意見を踏まえて、中身については、何か目に見えるような形のをやりたい。あんまり欲張っても仕方なくて、できることを2、3。運用の後押しになると思う。 それでは、議事の2「令和4年度まちづくり市民集会について」事務局から説明をお願いします。 |
| 池ヶ谷 | 今年度のまちづくり市民集会は、1月14日土曜日に、文化センター小ホールで予定をしております。 テーマや進め方については例年通り実行委員会を立ち上げまして、協議してまいります。第1回は7月28日（木）に開催の予定です。推進委員の皆様におかれましても、ぜひ実行委員としてご協力をお願いできればと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。 なお、第1回の実行委員会では、開催方法やテーマについて検討をしたいと考えています。ここで推進委員会のみなさまにご意見がございましたら、この場を借りてお伺いできればと思います。 まず、開催方法ですが、昨年度のようにオンラインでの開催とするのか、または、感染対策を講じたうえで、会場に集まってリアルで開催するのか、という検討が必要になります。 それからテーマについてですが、お配りしております資料に過去に開催した市民集会8回分のテーマが記載されておりますのでこちらを参考をお願いいたします。その時々々の旬のテーマとなっております。 開催方法とテーマ、この2点について、ご意見がございましたら頂戴できればと思います。 |
| 松下委員長 | まずは開催方法ですね。リアルかオンラインか。どう思いますか。またコロナが増えてきたけど、いつまでもコロナから逃げてばかりもいられない。かといって世の中の雰囲気というものがあるから。そのあたりどうでしょうか。私は、リアルでやりたいと思っている。もちろん工夫はいるし、今までのように百数十人集まってというのは難しいが、リアルでやった方がいいんじゃないかと思う。みなさん、どう思いますか。 |
| 小長谷委員 | 福祉関係のイベントは、リアルとオンラインを両方対応しています。リアルだとコロナで中止になってしまうこともあるし、障がいがあったり引きこもりであったりしても、オンラインなら出られるかもしれない。 |
| 松下委員長 | コロナのためにオンラインにする、ということではなく、オンラインの良さも使って、守りじゃなく、こちらだったら出られる、という人向きのチャンネルも用意しておいたらどうか、っていうことですね。それは技術的にできるんですか。 |
| 櫻井課長 | ハイブリッドは少しテクニックが必要になるかとは思いますが。 |
| 松下委員長 | 運営は正直難しくなるけれども、研究会などは大抵2ウェイで行っている。 |
| 中野委員 | オンラインだったら、焼津出身で、今は県外にいる大学生も参加できますね。 |
| 向坂委員 | 去年オンラインでやった成果として、集まれるだけの人数で集まって、去年よりプラスでオンライン加えたという形で計画をしたらいいのかな、と。例えば、児玉委員が言っていた、取り残されちゃう人がいるというのは、たしかに私も在宅介護をしたので、出たくても出れない人とか、介護されてるので動けない人とか、いますよね。例えば私が今住んでいる小川はサロンもいっぱいあって、高齢者の集会みたいところに1台パソコン持ってって、ボランティアさんに「おばあちゃんたち見て、市役所の部屋にいる人たちだよ」とか、「文化センターにいる人たちだよ。声聞こえるよ。遠くにお孫さんの顔も見えるよ」って繋がってもらって、ハイブリッドでリアルとオンラインを併用してやったらね、去年の成果として、今年の進歩になるのかなあと思ってるんですけどね。 |

| | |
|-------|--|
| 松下委員長 | いいですね。ズームを消極的に使うんじゃなくて、つながりとかプラスに使う。 |
| 向坂委員 | せっかく社協さん入ってて、伝手がいっぱいあるはずなんでね。いろんな人と繋がるきっかけづくりにいいのではないかと。今ちょっと昭和ブームなんで、若い子たちも昭和のおじいちゃんおばあちゃんの服好きだよ、とか、何かそんな話題振ってあげれば繋がったり会話ができるかなと。 |
| 松下委員長 | 運営は難しいけど、どうだろう。ハイブリッド型で行けそう？ |
| 櫻井課長 | いろいろと複雑な事情がありまして。どうしたらやれるか、研究させていただきたいです。 |
| 松下委員長 | 前向きに考えてもらって。やり方はいろいろあって、ここで言ったとおりじゃなくていいから。いくつかヒントがあったからそれを生かして。 |
| 向坂委員 | ウェルシップとここの会場だけでもいいし、文化センターを入れて3か所とか。昔ベストテンでサテライト会場に振ったじゃないですか。そんな感覚でやったらいいのかなとか。難しいことであるけど、Wi-Fi環境とか。そしたら1ヶ所で150人じゃなくて、40人を3か所で120人とかね。 |
| 児玉委員 | そのなかでグループ分けするわけ？ |
| 松下委員長 | みんな喋るっていうんじゃないけども、聞いてるっていう人たちもいて。たまにこちらから、どう？って話を聞いてみる、でも参加したことになるじゃない。各会場の責任者とか、その会場ににいるお年寄りにもちょっと喋ってもらったりさ。 |
| 向坂委員 | お年寄りとか、画面に映るだけでも喜んでくれるかな、って思います。 |
| 松下委員長 | じゃあ、そのハイブリット型でちょっと考えてみようということで、研究してみてください。会場は人数制限があると思いますが。 |
| 寺本委員 | 何か所もできるのですか。公民館3つとか。焼津は9つありますが。 |
| 松下委員長 | あまり最初から欲張らない方がいいかもしれないね。会場とそれからサテライトがあってね、それが一つか二つぐらいあって、それで試してみて、くらいがいいといいと思うんで。リピーターはどのくらいいますか。 |
| 児玉委員 | 3分の2はそうじゃないかな。 |
| 松下委員長 | それだけみんなで話したいって人がいるわけだ。そういうニーズもわるわけで、それも大事にしつつ、範囲を広げていってっていう。工夫すればさ、完璧なものじゃなくてもできると思うんで、面白いと思う。次はテーマです。何かありますか。事務局で何か考えてますか。だいたい焼津のまちづくりのテーマに合わせてやってきた。例えばふるさと納税とか、新元気世代とか。ある程度事務局の方で提示してもらわないと難しいと思う。今だったら、地域コミュニティでの人づくりとか。 |
| 池ヶ谷 | 事務局で考えていたのが、デジタルや、環境です。 |
| 松下委員長 | 人づくりは？ |
| 緒方主幹 | 実行委員会、そこにいけばありがたいですが。 |
| 松下委員長 | テーマは推進委員会としてはこうだよっていうのを示さないといけませんか。 |
| 緒方主幹 | 実行委員会形式なので、実行委員会がテーマを決めることになります。 |
| 松下委員長 | 私たちは、実行委員会で考えたことをベースにヒントをだしたり、後押しをする、でいいですね。開催方法については、さきほど出た意見を伝えてもらえれば。それでは議題の2については以上です。 |
| 緒方主幹 | (次回の推進委員会について日程調整) |
| 櫻井課長 | それでは、これをもちまして第1回自治基本条例推進委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。 |